

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度

令和元年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立城山障害者デイサービスセンターつくしの家
指定管理者名	特定非営利活動法人 福祉協会しろやま
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで(5年間)
施設設置条例	相模原市立城山障害者デイサービスセンター条例
施設の設置目的	在宅の障害者及びその介護を行う者に対し、通所による生産活動、創作的活動、介護方法の指導等の便宜を供与することによって障害者の自立と社会参加を促進し、もって障害者の福祉の増進に寄与する。(条例第2条) 障害福祉サービス事業(就労継続支援B型)を実施。
施設概要	開所時間:午前8時30分から午後5時15分まで 休館日:日曜日及び土曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、12月29日から翌年の1月3日まで 年間開所日数:268日 敷地面積:947.00㎡ 延床面積:301.00㎡ 主な施設:訓練・作業室、多目的室、静養室・相談室、更衣室、シャワー室、事務室、トイレ、倉庫
施設所管課	健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計(人)	4,497	4,290	4,589				
自立支援給付費合計(円)	34,833,918	35,304,621	39,148,095				
収入総額(円)	36,865,850	37,218,928	41,320,334				
支出総額(円)	30,911,162	33,977,147	37,890,919				
工賃支払額(円)	1,432,871	1,408,000	1,686,476				

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
A	開所日1日当たりの平均通所者数は、新規の利用があったことから、前年比で1.2人分増加しており、目標値を達成した。また、併せて、年間の延べ利用者数が7%程度増加していることから、引き続き、目標値を達成できるよう施設運営を進めて欲しい。

指標1

指標名(単位)	開所日1日当りの平均通所者数 単位:人
指標式と指標の説明	年間延通所者数÷開所日数 施設を利用し、生産活動、創作活動等の便宜を受けることにより、障害者の福祉の増進が図られるため、1日当たりの平均通所者数(年間延通所者数÷開所日数)を成果指標とする。

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(単位)	19.5	20.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0
実績値(単位)	16.7	15.9	17.1				
達成度(%)	85.6%	79.5%	100.6%				

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	<p>市が指定する就労継続支援B型事業については、紙袋の製作やチラシの封入など様々な生産活動の機会を提供している。就労に直接結びつく利用者はいなかったが、就労に必要な能力等の向上を図る支援を行っている。</p> <p>また、本来閉所日となる土曜日についても、重度の障害のある利用者を対象に余暇活動支援を行っていることは、職員への負担や勤務体制等が懸念されるが評価できる。</p>

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
就労継続支援(B型)の事業	通年	利用者の心身の状況に応じ、利用者の自立の支援と日常生活の充実に資するよう、適切な技術をもって行う。また、利用者に対し、その有する能力を活用することにより、地域生活を営むことができるようにするため、利用者の心身の特性に応じた必要な訓練を行う。(受注作業・紙袋の製作、チラシの封入、イベントチラシの配布、公共施設の清掃等。利用者の就労については、一般就労に結びつかなかったものの、より、細かい作業を要する事業所につなげることができた。)	
職場実習	通年	利用者が就労継続支援(B型)計画に沿って実習できるよう、実習の受入先の確保を行う。また、公共職業安定所、障害者就労・生活支援センター及び盲学校、聾学校、養護学校などの関係機関と連携して、利用者の就労に対する適性や要望に応じた職種・実習の受入先の確保に努める。(令和元年度は、該当者なし)	
求職活動の支援	通年	公共職業安定所での求職登録等、利用者が行う求職活動の支援を行う。また、公共職業安定所、障害者就労・生活支援センター及び盲学校、聾学校、養護学校などの関係機関と連携して、利用者の就労に関する適性や要望に応じた職場開拓に努める。(令和元年度は、該当者なし。関係機関とは必要に応じて連携)	
職場安定のための支援	通年	利用者の職場定着を促進するため、公共職業安定所、障害者就労・生活支援センター及び盲学校、聾学校、養護学校などの関係機関と連携して、利用者が就職した日から6月以上、職業生活における相談等の支援を継続する。(令和元年度は、該当者なし)	

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
土曜開所	通年	重度の障がい者等(療育手帳の判定Aの方や30歳未満の利用者等)を対象に毎月土曜開所日(隔週)を設け、余暇等を支援	
社会参加促進事業	通年	地域の見守りも兼ねて、定期的(1日/週)に地域の清掃活動を実施。社会性やマナーの習得、余暇支援として行事を実施。(年11回)	
地域との交流	9月・11月	イベント(城山地区福祉のつどい共催)を開催し、地域住民や関係機関の方々との交流の場を図った。	

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
B	アンケート調査結果は、「不満がある」との回答は無く、6割以上の利用者が「大変良かったと思う」と回答しており、目標値を達成した。実績値は、前年度と比較すると減少しているものの、就労継続支援B型事業や自主事業について、利用者ニーズにあった運営がされている。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	利用者20名に対して3月にアンケートを実施
目標値の基準	「施設を利用して良かったと思いますか」との問いに対する5段階評価のうち「大変良かったと思う」、「まあまあ良かったと思う」と回答した方の割合の合計

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	91.1	91.7	92.3	/	/	/	/
実績値（％）	84.2	100.0	90.0	/	/	/	/
達成度（％）	92.4%	109.1%	97.5%	/	/	/	/

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
ご家族との連携	通年	定期的な情報交換会の開催(年5回)、利用者、ご家族との親睦旅行及び新年会を実施
利用者打ち合わせ	通年	利用者の要望等の傾聴、利用者同士のトラブル解決の場として毎月1回実施
意見箱の設置	通年	利用者が気軽に意見を伝えられるように、事業所内に意見箱を設置

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	経営規模は、指定管理事業に比して大きくはないが、資産内容は堅実であり資金流動性は高く、自己資本が充実している。経営上の特段の課題はない。

施設の収支概要		直近3年間について記載		
		（千円）		
項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度
収入（a）		36,866	37,219	41,321
	指定管理料	0	0	0
	利用料金収入	0	0	0
	訓練等給付費、利用者負担金等	35,113	35,703	39,639
	就労支援事業収益	1,753	1,516	1,682
支出（b）		30,912	33,978	37,891
	人件費	24,366	27,154	30,730
	就労支援事業費	1,433	1,408	1,686
	その他の支出	5,113	5,416	5,475
本体事業収支【(a)-(b)】(c)		5,954	3,241	3,430
自主事業収入（d）		0	0	0
自主事業支出（e）		0	0	0
自主事業収支【(d)-(e)】(f)		0	0	0
全体収支【(c)+(f)】		5,954	3,241	3,430
備考	自主事業に係る経費は、本体事業の経費に含まれる。			

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	所管課職員による現地確認及びヒアリング
実施時期	令和2年8月17日

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 指定管理者の自己評価

令和元年度は、事業計画とおりに業務を行うことが出来ましたが、令和2年2月中旬からは新型コロナウイルスの影響で行事の中止や外出の自粛をしました。当初、新型コロナウイルスの対応について理解することが難しい利用者が多く、行事や外出の自粛で少し不安定な気持ちにさせてしまったかもしれません。

就労継続支援事業については、新型コロナウイルスによる影響はほとんどなく、受注作業を利用者に提供し、工賃平均（約6,000円/月）も前年度を上回りました。

9 所管課意見

- ・本市が指定する「就労継続支援B型事業」では、全体的に利用者が手際よく作業している様子が印象的であり、就労に必要な能力等の支援が適正に行われていることを評価する。
- ・また、重度の障害のある方等の余暇支援のために土曜日を開所するなど、利用者やその家族に寄り添う支援を行っており、高い満足度につながっていることを評価する。
- ・引き続き、利用者や家族の意見を聞く機会等を活用し、利用者等に寄り添った支援を充実させて欲しい。

10 選考委員会意見

【評価した点】

- ・工賃支払総額については、工賃を上げることが非常に困難状況な中で前年比20%程度も増加しており、非常に評価できる。
- ・利用者等のニーズに対応するため、本来閉所日となる土曜日に、重度の障害者が利用できるよう開所している。
- ・地域の見守りを兼ねての清掃活動を実施している。
- ・利用者について、直接就労に結びつかなかったものの、利用者の技量に合った障害福祉サービス事業所等へつなげている。

【今後期待する点等】

- ・新型コロナウイルス感染症の対策を講じて、利用者が安心・安全に利用できるような施設運営を行うこと。

総合評価（自動判定）

A

(75/100)

